

## 平成 28 年度 第 5 回政策討論会第三分科会要点記録

日 時 平成 28 年 11 月 28 日 (月)  
場 所 第二委員会室  
出席者 反甫 旭 (座長)  
友永 修 (副座長)  
井上 博  
井舎 英生  
柔原 佳一  
岩崎 雅秋  
米田 貴志  
井上 源次

### テーマ「災害時の議会对応と支援体制（態勢）について」

1. 災害時における議員の行動など、すでに議会として行動指針などを取り決めている他市（市原市/東日本大震災被災市 高石市/近隣市）のマニュアルを参考に意見を出し合った。
2. 次回の日程は、12 月 19 日（月）13 時とする。
3. 各議員からの発言・意見内容（順不同）

●高石市・市原市の内容を読んで、このようなものかなと思った。  
要綱と指針の二つに分けているが、これを一本化できないものか？  
災害時に震度 5 弱ならば電話にて連絡も出来ると思うが、6 以上になると携帯などは使えなくなるのではと考える。  
東日本の時などは、最初の 1 時間程度は携帯もつながっていたが、その後はつながらずにパニックになっていた。  
議員の安否確認等の確実な連絡方法を確立しておく必要がある。  
地震への災害対応ばかりではなく、異常気象による局地的豪雨や山崩れや牛滝川・春木川の氾濫などの可能性もあるので、それらへの対応も考えるべきではないか。  
牛滝川や春木川等は常に氾濫する可能性がある。特に牛滝川の蛇行している今木町のあたりで決壊すれば大災害になる。

我々は地域の選出ということではなく、市全体の奉仕者として対応すべきである。災害対策本部が出来るような時は、それに連動した議会の対応も必要ではないか。

災害対策本部への情報提供と、本部からの情報提供を議員全員の共通認識とする必要があるのでは。

●市原市・高石市の「大規模災害の時に開く手帳」を読んで大要これで良いと思いますが、特に（2）発災害時の議員の行動の②率先避難及び誘導の中で「避難誘導に地域の一員として協力する」とありますが、この通りで責任者ではなく地域の一員が良いと思う。

先日、東北で大きな揺れがありましたが、実際に効力を発揮したのかを検証すべきだと思う。

●高石市議会および市原市議会の「大規模災害の時に開く手帳」は、双方ともに類似しており本市議会の手本・参考になる。議長を本部長とした議会災害対策本部の設置において、議長不在時なども考慮して、次席を副議長、その次は議運委員長など順番を決めておくのが良いと思う。実際の災害時は、地域の現場にいたことが予想されるので、地域の災害担当者との連携で議員として行動することになるのだろうと予測している。

●先進市のマニュアルを参考に、具体的な内容を議論すべきではないか。（複数意見）